

令和7年度 園芸科・情報処理科「家庭総合」シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	園芸科・情報処理科 2年AC組
教科書	家庭総合（第一学習社）	副教材等	担当者による自作プリント

1 学習の到達目標

- ・人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的に身に付けるようにする。
- ・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
- ・様々な人々と協働し、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

2 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価方法
4	3章 子どもとかわわる	保育 1、子どもとは 2、子どもの発達	家庭総合を学ぶにあたって ・妊娠から子どもの誕生までの母体の健康管理、胎児の発育と母体の変化を学ぶ。	行動観察 ワークシート
5			・胎児の環境としての母体について理解し、母体の健康管理の重要性と生命の尊さへの認識を深める。 ・乳幼児期は一生を通じての人間の発達の基礎をつくる最も重要な時期であることを理解する。	ワークシート 行動観察
6		3、子どもの生活 4、子どもをはぐくむ 5、子どものための社会福祉	・子どもの発育・発達には個人差があるが、一定の順序と共通性があることを認識する。 ・新生児、乳児、幼児それぞれの時期の特徴について理解する。	発表 ワークシート
7	4章 高齢者とかわわる	1、高齢社会に生きる 2、高齢者の自立を支える	・高齢社会の現状、貧困や障害など現代社会の生活課題と社会的セーフティネットの仕組みについて学ぶ。	実習 行動観察 ワークシート
9	6章 食生活をつくる	食生活 1、人と食物のかかわり 2、私たちの食生活 3、栄養と食品のかかわり	・食物の役割を認識し、食が心身を育むうえでも大切なものであることを理解する。 ・日常の食生活のなかで心がけるべきポイントを知り、それを実践できる力を養う。 ・現在の食生活の傾向を知り、健康で安全な食生活を営むための基本を理解する。	行動観察 ワークシート
10		4、食品の選び方と安全 5、楽しく安全に食べる	・PFC比率に注目し、日本は脂質のとりすぎの傾向にあることを理解する。 ・無駄のない食材の使用や、環境に負荷をかけない食生活上の工夫を考える。 ・健康な生活を送るうえで必要な栄養素とそのおこな働きについて理解する。	
11		6、食品の選び方と安全 7、これからの食生活を考える	・消費期限・賞味期限をもとに食品を選ぶ力を養う。 ・食品の品質表示、栄養表示をとおして内容を読みとり、身体状況に応じた食品を選択できるようにする。	実習 実技

12			・健康の維持・増進、からだの成長のために必要な食事摂取基準について理解する。 ・自分および家族の食事摂取基準について調べ、家族の栄養摂取量の平均がいくらになるか求める。 ・食事摂取基準を満たすためには、どの食品をどれだけ食べればよいのかというめやすを示した「食品群」について学習する。「食品群別摂取量のめやす」の表を使いこなせるようにする。 ・食品の選択・計量・器具の扱い、および包丁の使い方、野菜の切り方など調理の基本技術を習得する。 ・日本料理・西洋料理・中国料理の盛りつけと配膳ができ、マナーを心得て食事ができるようにする。・からだの発達同様、情緒や言語の発達についても個人差が大きいことを知る。	行動観察 ワークシート
1	◆ホームプロジェクト	ホームプロジェクト	・個人と社会のかかわりを理解し、主体的に生活設計できる力を養う。	ワークシート
2	◆SDGsについて考える	人生を設計するために考えること	・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察する。	行動観察
3	◆人生を設計するために考えること		・生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。	ワークシート
			・家庭総合で学んだことを元に、具体的な人生設計をする。 ※君と未来ライフプラン	ワークシート
			・仕事を選ぶうえで、大事にしたいことはなにか考える。	行動観察
			・生涯を通して個人や家族の生活を支える福祉や社会的支援について理解する。	

3 評価の観点

知識・技能	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。
思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。
主体的に学習に取り組む態度	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価基準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ

家庭科では、人間らしい生活をするために、何をどのように食べるのか、何を着て、どう住まうのか、どのような家族や地域をつくっていくのか、そしてそれらに社会がどう関係し、地球規模での環境問題や生活課題がどうつながっているのかなどを学び、自分の生活を自分でデザインする力を付けます。 豊かで主体的な生活を送るために、まずは現在の自分の日常生活に関心をもつことから始めてください。授業では講義や実習、個人作業など様々な形態の学習活動を行います。いずれも積極的に取り組み実践力を身に付けて欲しいと思います。
